

女子大学院生・ポスドクのための産総研所内紹介 と在職女性研究者との懇談会開催報告

加野友紀¹⁾・針金由美子¹⁾・産総研ダイバーシティ推進室

産総研ダイバーシティ推進室主催の「女子大学院生・ポスドクのための産総研所内紹介と在職女性研究者との懇談会」が、2018年11月19日～20日の日程でつくばセンターにて開催されました。このイベントは女性の学部生、大学院生やポスドクへ産総研の職場紹介や在職女性研究者との懇談を通して研究職のキャリアイメージを描く手助けを行うことを目的としたもので、2016年度より開催し、今回で3回目となります。本稿では、地質調査総合センター(GSJ)に関連する部分について報告いたします。

本イベントは、下記のプログラムで開催されました。

11月19日(月)

- 12:30 受付開始
- 13:00～14:00 開会式・理事による講演(産総研の研究紹介、自身のキャリア紹介)
- 14:00～15:00 産総研各種制度説明
- 15:10～17:10 女性ロールモデル紹介・懇談会
- 17:30～19:30 交流会

11月20日(火)

- 9:30～10:45 ラボ見学ツアー(1 枠目, GSJ 対応)
- 10:45～12:00 ラボ見学ツアー(2 枠目)
- 13:00～15:00 ミュージアムツアー
- ①地質標本館ツアーと岩石薄片ができるまで
- ②サイエンス・スクエアつくば ガイド付き見学ツアー
- 15:00～15:10 閉会式

1日目は、共用講堂で全体のイベントが行われました。開会式の後、加藤一実理事による産総研の研究紹介や自身のキャリア紹介、続いて各担当部署から、採用・人事制度やイノベーションスクール、RA制度・技術研修などの人材育成制度、育児支援などのダイバーシティ推進策など、産総研の様々な制度について紹介がありました。

次に、壇上で女性ロールモデルとなる産総研の女性研究者の紹介が行われました(写真1)。GSJからは活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループの宮下由香里研究グループ長と、針金(兼務:地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ付)が参加しました。女性研究者の紹介

が終わった後、ホワイエで研究領域ごとのテーブルに分かれて懇談会を行いました。GSJのテーブルでは宮下研究グループ長、針金の他、2016年に本イベント(竹内ほか、2016)に参加し、今年度産総研に入所した地質情報研究部門 地殻岩石研究グループの村岡やよい研究員と、加野が参加しました。参加者は数回席替えをしながら、女性研究者との懇談を行いました(写真2)。質問内容は採用や入所後の状況に関するものが多く、大学での研究内容や自分の興味関心が産総研の研究業務とマッチングするかや、産総研で働くことについてよく考えている様子が伺えました。

懇談会後には構内の食堂で交流会が開催され、GSJからは森田澄人研究企画室長、村岡研究員、針金、加野が参加しました。和やかな雰囲気の中、我々は、参加者からの産総研への就職のみならず大学での研究やつくばでの生活などに関する様々な質問に対応しました。

2日目の午前にはラボ見学ツアーが開かれました。GSJのラボ見学ツアーには6名の参加がありました。ラボ見学ツアーでは、地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループの持丸華子主任研究員と、地質情報研究部門 地球化学研究グループの久保田 蘭主任研究員、太田充恒上級主任研究員が研究内容と実験設備の紹介を行いました。持丸主任研究員は、様々な種類のメタン生



写真1 女性研究者紹介の様子。

1) 産総研 地質調査総合センター 研究戦略部

キーワード: ダイバーシティ推進, 女性研究者, アウトリーチ



写真2 懇談会の様子。

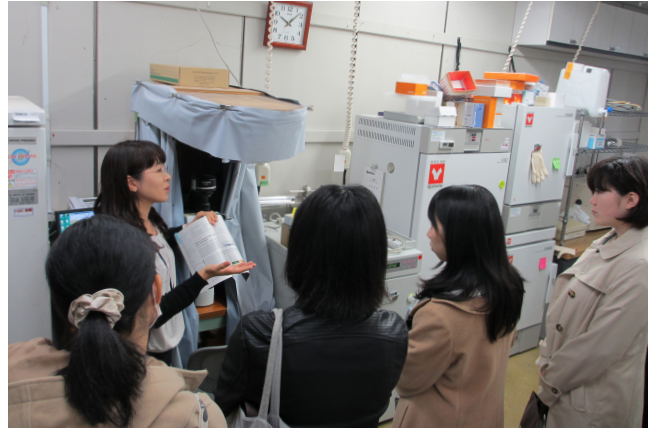


写真3 地圏微生物研究グループの実験室見学。微生物観察や掲載論文の紹介。

成菌の培養実験や特定の光を当てると菌の細胞が発光する様子を参加者へ紹介しました。また、サイエンス誌に掲載された論文(Mayumi *et al.*, 2016)や、産総研と講談社のコラボシリーズである「さがせ、おもしろ研究! ブルーボックス探検隊が行く」への掲載(https://www.aist.go.jp/aist_j/aistinfo/bluebacks/no16/ 2019年1月24日)を紹介し、GSJの活動をアピールしました(写真3)。久保田主任研究員は、無機元素の分析機器や、地球化学図(今井ほか, 2004, 2010, 2015)や地球化学標準試料について説明しました(写真4)。大学で生物や化学を専攻する参加者は、地質の研究が幅広い分野と結びつきがあることを実感した様子でした。太田上級主任研究員は化学分析中の様子を紹介し(写真5)、先端的な研究とともに基盤的な地質情報の整備がGSJの重要なミッションであることをラボ見学ツアー参加者へアピールしました。また持丸主任研究員と久保田主任研究員は、入所の経緯や入所後のキャリア、産総研で整備されている各種育児関連の制度を紹介し、参加者は産総研で働く、より具体的なイメージが描けたようでした。

2日目の午後はミュージアムツアーが開かれ、GSJでは「地質標本館ツアーと岩石薄片ができるまで」を行い、地質標本館および地質試料調製室へ8名の参加者を案内しました。地質標本館では、当日から始まった地質標本館2018年度特別展「明治からつなぐ地質の知恵 北海道の地質—北海道命名150周年—」の展示である床張り地質図や、2018年3月から地質標本館に導入された高精度のプロジェクションマッピングによる日本列島の地質模型(藤原・芝原, 2018)、各種剥ぎ取り標本などを用い、地質情報の重要性について森田研究企画室長が説明を行いました(写真6)。次に地質試料調製室にて、地質情報基盤セ



写真4 地球化学研究グループの実験室見学。地球化学標準試料の紹介。

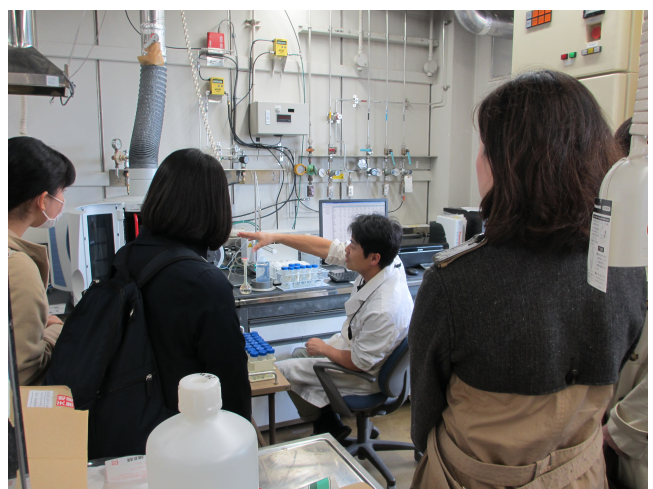


写真5 地球化学研究グループの実験室見学。試料分析の様子を紹介。



写真6 地質標本館にて、北海道地質図の床張りで地質図に詰められた内容を説明。

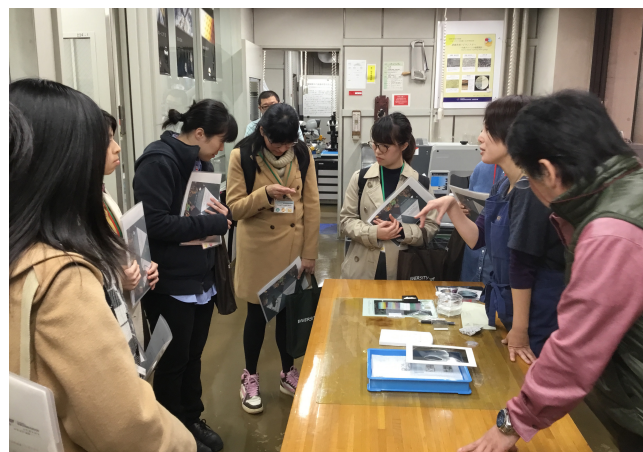


写真7 地質試料調製室にて薄片作製技術を紹介。

ンター 地質標本館室 地質試料調製グループの平林恵理主査が研磨薄片試料の作成方法などを紹介し(写真7), 参加者に実際の研磨薄片を観察してもらいました。研磨薄片は岩石等を偏光顕微鏡下での鑑定のために厚さ 30 μm 程度まで薄くしたものです。いかに元の成分や組織を壊さず、薄く平坦な研磨薄片を作製するかが課題となり、GSJはこの研磨薄片作製において世界でもトップレベルの技術を有します。岩石だけでなく植物や歯なども非常に薄い研磨薄片にしてしまう技術、そして一見シンプルな試料を偏光板で挟むことで現れる世界に、参加者からは感嘆の声があがりました。以上で地質標本館と地質試料調製室へのツアーは終了しましたが、閉会式後には他の研究領域のプログラムの参加者も含め、改めて地質標本館を訪れた参加者も多くいたそうです。

その後、閉会式を以って2日間のイベントが無事に終了しました。全体の参加者数は46名でした。このイベントは、参加者へ産総研で働くということを肌で感じてもらうことが大きな目的ですが、研究者側も研究意義を振り返ると同時に、参加者から元気をもらえる機会でもあります。イベントを通じて参加者へ産総研、そしてGSJの魅力をお伝えできたことを光榮に思います。今後、産総研への就職のみならず広く共に研究するきっかけとしていただければ幸いです。

文 献

藤原 治・芝原暁彦(2018) プロジェクションマッピングでリニューアルされた「日本列島立体地質図」.
GSJ 地質ニュース, 7, 178-181.

今井 登・寺島 滋・太田充恒・御子柴(氏家)真澄・岡

井貴司・立花好子・富樫茂子・松久幸敬・金井 豊・上岡 晃・谷口政碩(2004) 日本の地球化学図—元素の分布から何が分かるか?—. 産総研地質調査総合センター, 209p.

今井 登・寺島 滋・太田充恒・御子柴(氏家)真澄・岡井貴司・立花好子・池原 研・片山 肇・野田 篤・富樫茂子・松久幸敬・金井 豊・上岡 晃(2010) 海と陸の地球化学図. 産総研地質調査総合センター, 207p.

今井 登・岡井貴司・太田充恒・御子柴(氏家)真澄・金井 豊・久保田 蘭・立花好子・寺島 滋・池原 研・片山 肇・野田 篤(2015) 関東の地球化学図. 産総研地質調査総合センター, 217p.

Mayumi, D., Mochimaru, H., Tamaki, H., Yamamoto, K., Yoshioka, H., Suzuki, Y., Kamagata, Y. and Sakata, S. (2016) Methane production from coal by a single methanogen. *Science*, 354 (6309), 222-225.

竹内美緒・産総研ダイバーシティ推進室(2016) 女子大学院生・ポスドクと産総研女性研究者との懇談会開催報告. GSJ 地質ニュース, 5, 405-406.

KANO Yuki, HARIGANE Yumiko and Diversity and Equal Opportunity Office (2019) Report on Female Graduate Students Laboratory Tours and Round Table Talk with Women Researchers in AIST.

(受付:2019年1月21日)